

第2回函館市まち・ひと・しごと創生推進会議会議録

○ 開催日時：平成29年1月11日（水） 18：30～20：22

○ 開催場所：函館市本庁舎8階第1会議室

○ 出席者

委員：中野委員，奥平委員，赤淵委員，八木橋委員，高橋委員
（委員名簿順 [5名]）

市側：[企画部] 種田部長，田畑室長，嶽本主査，田中主査，澤株主査

.....
次 第

1 開会

2 議事

(1) 総合戦略の評価・検証について[平成27年度実績]

(2) 総合戦略の改訂について

(3) 地方創生に関する最近の動向について

3 その他

4 閉会

(事務局 田畑室長)

ただ今から、平成28年度第2回函館市まち・ひと・しごと創生推進会議を開催いたします。

はじめに、本会議につきましては、公開で行い、また、会議の内容につきましても、開催後に本市のホームページなどで市民の皆様にご周知させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

なお、本日の会議は、都合により3名の委員が欠席いたしまして、委員5名に出席いただいておりますので、ご報告いたします。審議に入る前に、前回欠席されておりました委員をご紹介しますと存じます。公募委員の高橋委員でございます。

(高橋委員)

高橋でございます。よろしくお願いいたします。

(事務局 田畑室長)

ありがとうございました。それでは、以後の進行につきましては、奥平委員長にお願いしたいと思います。奥平委員長よろしくお願いいたします。

(1) 総合戦略の評価・検証について[平成27年度実績]

(奥平委員長)

みなさんこんばんは。議論を進めていきたいと思っておりますので、どうぞ皆さん忌憚のないご意見を頂戴できますよう、よろしくお願いいたします。それでは議事の方に入らせていただきます。

本日は3件の議題がございます。一つ目は、平成27年度の実績を踏まえた総合戦略の評価・検証、二つ目は総合戦略の改訂について、三つ目は地方創生に関する最近の動向について、事務局より説明を頂き、これを踏まえて委員の皆様と今後の地方創生について少しお話ができればと考えております。

なお、本日は非常にボリュームがございます。スムーズな議事進行へのご協力をお願いいたします。では、早速ではございますが、議題1、総合戦略の評価・検証に入りたいと思っております。評価の方法等につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局 嶽本主査)

それでは、評価の方法等について説明させていただきます。本日の会議におきましては、活性化総合戦略に掲載しております、5つの基本目標に取り組むための24の施策の評価・検証をお願いいたします。施策は基本目標を実現するために行うものでありますことから、基本目標の進捗状況のほか、施策毎に掲げております重要業績評価指標であるKPIの達成度や市の内部評価も踏まえ、施策に基づく事業がKPIの達成に有効であった、あるいはKPIの達成に有効とは言えなかったという大きくこれら2つの視点で評価していただき、改善策等の意見がある場合につきましては、併せてお願いしたいと考えております。以上が評価・検証についてです。

次に、調書の構成について説明させていただきたいと思っております。お手元にあります、右上に資料1-2と書かれた、A3の大きい調書をご覧ください。前回の調書をベースにしつつ、総合戦略に記載しております施策毎に、KPIや実績値、さらには、事業とその内容を掲載しておりますが、事業につきましては、全てを掲載すると膨大になってしまうことから、最

大5つまでの記載としております。また、主な事業名の欄に「交付金対象」と記載のある事業につきましては、前回の会議で評価いたしました地方創生交付金の対象事業となっております。実績の右隣の欄には、実績に基づく市の内部評価を記載しており、区分といたしましては、A：順調、B：一定の成果有、C：一部成果有、D：成果なしといった4つの区分の選択式で、A評価は、目標年度までに達成できると考えられるものを、B評価は、概ね7割以上の達成が見込まれるものを、C評価は、一部の達成が見込まれるものを、D評価は、達成が難しいものとして評価しております。その右隣の外部評価欄は、今回の評価結果を入れる箇所となります。区分といたしましては、a：KPI達成に有効であった、b：KPI達成に有効とは言えない、の2つの区分となっており、意見等があった場合には、要約して掲載したいと考えております。さらに、その右隣の「今後の方向性」の今後の方針欄につきましては、ア：追加等更に発展させる、イ：事業内容の見直し（改善）、ウ：事業の継続、エ：事業の中止、オ：予定通り事業終了という5つの区分の選択式となっており、その横の取組内容欄に方向性等を記載しております。私からの説明は以上となります。

(奥平委員長)

ありがとうございました。ただいまの評価・検証の方法につきまして、皆様方、ご質問等ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、No.1 国内プロモーション活動の強化につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局 嶽本主査)

事業の説明に入る前に、お手元に配布しております、資料1-1基本目標の進捗状況をご覧くださいと思います。

こちらは、総合戦略の5つの基本目標毎に設定した数値目標の進捗状況をまとめたものです。総合戦略は、この5つの基本目標を達成するために施策を展開し、事業を実施しており、基本目標の達成度を測るために、数値目標を設定しております。一部、把握できない指標もございますが、例えば、基本目標4 函館の印象「とてもよい」の回答の割合が、既に目標を上回っているなど、初年度から一定の成果は出てきていると考えております。評価にあたってはこちらの方も踏まえていただければと思います。

それでは、個別の事業の説明に入っていきたいと思います。A3の資料1-2総合戦略評価対象施策調書の方に戻っていただきたいと思います。1番目は、国内プロモーション活動の強化です。事業は、北海道新幹線開業までのカウントダウンイベント等を実施しました。KPIは、計画期間5年間でのプロモーション回数、累計100回以上となっており、内部評価といたしましては、1年あたりの平均20回を上回っていることから、a評価といたしました。また、今後の方向性といたしましては、より効果的なプロモーションを実施していくため、イとしたものでございます。私の方からは以上となります。

(奥平委員長)

それでは、説明のありました、国内プロモーション活動の強化につきまして、何か質問ございませんか。質問がないようでしたら、この事業につきまして、有効であるかどうかを評価したいと思います。資料1-2の上の方に記載してあります、外部評価の区分の部分のaとbを決めるということになるわけですがけれども、皆さん何かご意見等ございませんでしょうか。

(八木橋委員)

目標を達成しているのです、a しかないと思います。

(奥平委員長)

今、a しかないというご意見が出ましたが、皆さんいかがでしょうか。ご意見ございませんでしょうか。それではこの事業につきましては、a とさせていただきます。何かこれについてご意見ございませんか。今後こうした方がいいとかですね、そういう部分ございませんか。

事務局にご質問したいんですけども、プロモーションが今年度で終わると伺っていましたが、これは、今年度で終わるということでよろしいでしょうか。

(事務局 嶽本主査)

開業記念イベント事業については、終了になります。

(奥平委員長)

わかりました。他に、ご意見等ございませんでしょうか。このプロモーション活動の強化についてですが、今後の方向性に、効果的なプロモーションを実施すると記載してありますが、例えば、今までやってきた新幹線開業のプロモーションをベースとした、人を大勢呼べるようなものを考えるのもいいのではないかと私は考えました。皆さんいかがでしょうか。

(八木橋委員)

ある意味、開業初年度というのは、何もしなくても、比較的多くの方に利用されるでしょうから、2年目以降が勝負になってくると思います。

(中野委員)

観光に関して私は色々やっていますが、大事なものはネタづくりですね。プロモーションには行くんですが、函館は既に知名度があるので、いつもと違う函館というような何かネタをもってないと、なかなか興味を示してもらえないのかなと思います。そこに、ある程度お金をかけないといけない。プロモーションの回数を増やただけではどうかという感はあるのかなと。

(奥平委員長)

ありがとうございました。他にございませんか。よろしいでしょうか。それでは国内プロモーション活動の強化、この部分の評価につきましては、終了させていただきます。では、次に移りたいと思います。

海外プロモーション活動の強化についてなんですけども、まず、評価を a, b を決めたいと思いますけど、ご意見ございませんか。ご意見がなければ自動的に a になるのかなと思うのですけれども、a でよろしいでしょうか。ありがとうございます。

これにつきまして、何かご意見ありませんでしょうか。ここに「はこぶら」の話が出ていますが、これはホームページですよ。私は、アプリ化した方が気がします。ホームページは起動性が悪いといいますか、そういうところがあるので、アプリ化を次のステップにしてはどうかと思います。先週、高専で観光をテーマとした集まりがあったのですが、学生からそういう意見が出ていました。そこでの意見も取り入れていければいいのかなと思っておりましたので、参考までにお話をさせていただきました。

質問ですが、はこぶらが、なぜ海外の方にしか入っていないのでしょうか。国内にも関わるものですよ。

(事務局 嶽本主査)

国内、国外の両方に関係するものになります。10カ国語以上の言語に対応しているなどの特徴があるため、海外向けの方に掲載させていただきました。

(奥平委員長)

わかりました。ありがとうございます。是非、アプリ化をご検討いただければと思います。他に何かございませんでしょうか。

(中野委員)

海外は、色々な国へ行っていますが、函館であっても国内と違い全く知られていない環境なので、わかりやすい内容に心がけていただきたい。もう一つは、相手の国の文化がそれぞれ違っており、興味を示すものも異なるので、そこは少しお金をかけて調査をするなりして、国毎に使分けられるような情報提供ができればいいと思います。観光協会の方でもそういう議論はしていますが、なかなか手が回っていないのでよろしくお願いします。

(奥平委員長)

ありがとうございます。他に委員の皆様から何か意見はございませんでしょうか。意見がないということですので、それでは、この事業につきましても、評価は a ということで終了したいと思います。ありがとうございました。

続きまして、3番目、MICE、スポーツ大会・合宿等の誘致強化につきまして、評価はいかがでしょうか。ご意見が無いようですので a ということで、皆さんよろしいでしょうか。数値的には、かなり頑張っているのかなという気はいたします。

(八木橋委員)

今年の9月に、私どもが主催する400人規模の会議をアリーナで実施する予定です。そのことでアリーナに伺った際に色々と親切に説明を受け、改めて本当に素晴らしい施設だと感じたんですが、少し気になったことがありました。私どもは400人規模ですが、1,000人規模の会議等を想定すると駐車場の規模が不足しているように感じました。特に、管内から何百人と人を呼ぼうとすれば、どうしても車で来る人が多くなってしまいます。施設をより効果的に活用するためにも駐車場が課題だと思うのですが、今の状態で完結なんですよ。

(事務局 種田部長)

確かに駐車場は不足しております。車が渋滞したりですとか、バスが停められないとか、色々な問題がありますが、周辺で新たな駐車場を確保するというのは難しいと思っております。例えば平日であれば、競馬場の駐車場を使わせてもらい、そこからピストンで運ぶだとか、また、バスの駐車場については、アリーナで乗降だけしていただいて、他の場所に駐車場を確保していただくなどの方法で対応しています。大規模イベントの際には、市民会館とアリーナの間部分「ともえひろば」と呼んでいる部分にバスを入れて停めるというようなこともイベントの規模・内容によっては、そういった方法でも対応していますが、周辺に公共用地がないものですから、今のところ、駐車場を拡大する予定にはなっていないというのが現況です。

(奥平委員長)

わかりました。ありがとうございます。

(高橋委員)

大きい会議があるときは、競馬場の駐車場も借りているのは知っていました。

(奥平委員長)

今でも、そのようにしているという話は聞いております。

(事務局 種田部長)

土日など競馬が開催している際の使用は難しいと思います。常に借りられる訳ではないです。

(奥平委員長)

アリーナ周辺には中学校が2つあるので、もし部活等でグラウンドを使用しない日であれば、開放してもいいのではないかと思います。何か策を講じなければならない気がします。

(八木橋委員)

開放予定の場所とかないのでしょうか。

(奥平委員長)

周辺に使える空き地というようなものがなく、競馬場の駐車場しかないという状況です。競輪場までとなると遠すぎます。

(八木橋委員)

思い切って立体駐車場という構想はないのですか。

(事務局 種田部長)

今のところはありません。

(奥平委員長)

そういうことを担当部局に考えていただくのがいいのかなと思います。どういう方法があるのかということです。言ってみれば、部局を横断的に考えていただくというのが大事なのかなと思います。

(事務局 種田部長)

ご意見があったことは伝えておきます。

(奥平委員長)

よろしくお願いいたします。皆さん、あと他にございませんでしょうか。

それでは、MICE、スポーツ大会・合宿等の誘致強化につきましては、評価は a、付帯意見については、先ほど皆さんからいただいた内容という形になります。ありがとうございました。

続きまして4番目です。地場産業の活性化になります。本件につきましては、皆様から評価についてお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。ご意見がないようですので、これも a ということでよろしいでしょうか。一定の成果があったということでよろしいでしょうか。

これについて、ご意見等ございませんでしょうか。私からお願いがあります。以前に首都圏のローソン店内にあるアンテナショップに行きました。そこに2時間くらいいて売り上げの状況をチェックしてみたんですが、結構、買うんですよ。場所は、東京駅の八重洲口にあるのですが、これを別のところにも展開できないのかなと思います。例えば、巣鴨のとげぬき地蔵の近くに設置するなど、人が集まりそうなところに設置すると、もう少し効果があるのかなという感じがしました。それを担当部局にもお伝えいただければと思います。ローソンといわず、他のコンビニ会社でもやってみたらいかがという気はしています。他に皆さん何かございませんでしょうか。よろしいでしょうか。本件につきましては、a 評価ということで次に進ませていただきます。ありがとうございました。

次のページになります。5番目、新産業の創出について、皆様から a、b の評価を頂戴したいと思います。よろしくお願いいたします。ご意見がないようですので、a 評価ということでよろしいでしょうか。特に、競争的資金の獲得が結構うまくいっているのかなという気がするんですが、ご意見ございませんか。では、これはこのまま a 評価としたいと思います。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

では、続きまして、起業化支援について皆様から評価を頂戴したいと思います。いかがでしょ

うか。一つ質問ですが、平成 27 年実績、創業者支援件数なんですけど、支援しただけで、実は創業した件数は分からないのかなど。これだけですと、支援はしたが、実際それがどういうふうに起業に繋がったのかをちょっと知りたい部分ではあります。

(事務局 嶽本主査)

創業支援者件数の 354 件というのは、セミナーやビジネスプラン作成スクール、総合塾などに参加した方の件数になっております。なお、創業まで繋がってる件数については、情報として把握しておりませんでした。

(奥平委員長)

担当部署に、そこからどういうふうに繋がっていったのか、その成果を指標として出して頂けると、より市民もわかりやすいと思いますので、その辺を伝えていただければと思います。

(事務局 嶽本主査)

承知しました。

(奥平委員長)

他に皆様から何かございませんでしょうか。それではこの施策につきましても、a 評価ということで、付帯意見は、先ほど述べたとおりということにしたいと思います。ありがとうございます。

続きまして、起業誘致につきまして、皆様の評価を頂戴したいと思います。ご意見ございませんでしょうか。それでは、本件につきましても a 評価としたいと思いますが、何かご意見ございませんか。

(八木橋委員)

主な事業で、企業立地促進条例補助金 6 件とありますが、金額が大きくなっております。差し支えなければ概要を教えてくださいたいと思います。

(事務局 嶽本主査)

企業立地促進条例補助金についてですが、安定的な雇用の機会の創出、産業集積の活性化を図り、本市の経済の発展に資することを目的として、函館市内に工場などを立地したもので、所定の要件を満たすものに補助金を交付するという制度です。金額が大きくなってはいますが、これは設備投資等についても該当するため、例えば単年度ではなく、複数年度で設備投資をする企業もあるので、複数年にわたって補助金を交付しているようなものもあります。

(奥平委員長)

件数が 6 件とありますが、この 6 件からどれだけの雇用効果が得られたのかということを経験として出した方がよいと思います。件数よりも、経済がどれだけ潤ったかということになりますので、出てきたからといって経済が潤う訳ではないので、そこで、どれだけの雇用が創出されたのかということを経験として出していただければ、より評価がわかりやすくなると思います。その数値があれば、お教えいただければと思います。

(事務局 嶽本主査)

30 名の雇用効果があったと把握しております。

(奥平委員長)

ありがとうございました。この経年変化を見ていくということも大事かなと思います。そういう数値も出していただけたらと思いますので、部局にもお伝えいただければと思います。他に皆さん何かございませんでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、本件については a 評価とし、

意見については、今、出たとおりということで決めたいと思います。ありがとうございました。

それでは、続きまして、安心して子どもを産み育てることができるまちづくり（ア）保護者への支援について、評価を皆さんから頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

これは女性の視点から、赤淵委員にご意見をいただければと思います。

（赤淵委員）

こちらに書いている内容とは全く異なってしまうかもしれないのですが、以前、子ども未来部に待機児童の状況についてお伺いしたことがありました。実際、函館市では待機児童はいないという回答をいただきました。そういう面でも子育て支援がすごく充実していると感じております。

（高橋委員）

ここの施策に該当しないかもしれませんが、例えば、安心して子どもを育てるということに関係して、今、学校で問題になっているのが携帯、情報リテラシーが問題なんですよ。携帯を使って事件を起こしたとか。

（奥平委員長）

その件につきましては、該当する施策のところでご意見をいただくことにしたいと思います。他に皆さんから何かご意見ございませんか。これも a 評価ということで、皆さんよろしいでしょうか。意見につきましては、赤淵委員から出た部分を基本として伝えていくという形にしたいと思います。どうもありがとうございました。

続きまして3枚目に移らさせていただきます。（イ）事業者への運営支援ということで、ここにつきましては、皆さまから評価を頂戴したいと思います。いかがでしょうか。先ほどと繋がっている内容なので、これにつきましても a 評価ということでよろしいでしょうか。何かそれについて付帯意見ございませんか。ご意見ないようですので、ここは a 評価で、意見なしということにしたいと思います。ありがとうございました。

続きまして（ウ）教育・保育の質の向上です。これにつきましては、皆さんから評価を頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

（八木橋委員）

これは、実施した事業等に対する評価ですよ。私は、自分の周りで、よく小・中学校の統廃合問題についての話を耳にします。統合前までは、確か国の基準の半分、確か6キロであれば3キロだとか、子どもが自宅から通学する距離を半分くらいの基準で学校を設置していた。これまでは、安全に近い距離で通えたけれども、これからは、そうはいかない。特に、小学生くらいの子どもがいる方々からは、そこにマスコミの方がいますけど、新聞に出て初めて知ったということを知ります。私も、違う場でやり方を丁寧にするべきだというお話をさせてもらったことがあります。必然的に放課後の子どもの預かり方など、そういう部分のあり方にも、今後、影響してくるのかなと思います。実施した事業等に対する評価については、とやかく言うところはないのですが、周りの話を聞くと、前倒しして協議できないものかと思ったものですから。

（事務局 種田部長）

今のお話は、学校を統廃合することが与える影響についてですか。

（八木橋委員）

学校の統廃合によって、これまでは、小学校1年生が歩いて15分くらいで通えたのが、もっとかかるようになる訳ですから。

(事務局 種田部長)

通学時間が伸びるということですか。

(八木橋委員)

手っ取り早く言うと、20分も30分もかかって小学校1年生が歩いて行けるのかと、もちろんそのための通学路の安全性が確保されているのかなど、課題も多くあるのではないかという話が聞かされています。それぞれの担当部署で対応していると思うのですが、そういう課題が見えているので、そういうのをもう少し、前倒しで取りかかっているのかなという気がします。評価については、実施したものに対する評価ですから、a評価で良いと思うんですけど、なんか少し遅れてるというか、見えてくる分にはたいして先手を打つべきではないかと。例えば、学校施設、学校でなくなった後の施設の活用だとか、もしくは解体した後の敷地の活用だとか、自ずと見えてくるものに対して、どうしても後手後手になっているんじゃないのかなと、そんな気がしています。どうなんでしょう。

(奥平委員長)

この件につきましては、将来のお話しということになりますので、この部分の評価とは関係ないんですが、一応、それを念頭において、次の施策に進んでみたら、もしかしたら、新しい視点が出てくるのかなと思いますので、担当部局に、恐らく教育委員会だと思いますけど、お伝えをお願いしたいと思います。ありがとうございます。

今、a評価というお話が出たんですが、a評価でよろしいですか。では、この事業についてはa評価ということできたいと思います。付帯意見は、将来に向けてということで、八木橋委員の話をベースにしたものをお伝えいただければと思います。ありがとうございました。

先ほど、高橋委員からお話しのありました情報リテラシーは、実をいうと、この一番下の学校ICTとの絡みだと私は思っています。ここの部分ですね、導入すると書かれていますが、ここでもう一つ大事なものは、情報リテラシー教育をすることです。これを入れると、高橋委員の先ほどの携帯電話の使い方やマナーなどを全部指導できるのかなと思いますので。

(高橋委員)

私が言っているのは、マナーはマナーなんですけど、そういう懸念があるということです。

(奥平委員長)

それを教育するのがリテラシー教育です。

(高橋委員)

校区の中に誰か先生がいて、講座を開くとかそういう事業があるのかなと思っていました。

(奥平委員長)

そうした講座の開催も含めたICT教育になると思います。その辺も、是非、検討いただきたいと思います。他に何か、皆さんございませんでしょうか。それでは本件につきましては、a評価ということで、意見については、お話ししたとおりということになります。ありがとうございました。

続きまして、若者の就労支援についてです。これにつきまして、皆様から評価を頂戴したいと思えます。

(赤渕委員)

事業の中で、「地元への就職のための意見交換会の開催」とありますが、地元で学生さんが就職できるような取り組みを継続していただきたいと思っています。参考までに、当行でも行って

いる取り組みをご紹介させていただきます。札幌で全道のものづくり企業を集めて「ものづくりテクノフェア」というイベントを毎年開催しています。そこに、全道の工業高校の学生さんを招き、道内にどのような企業があるのかというところを実際に見ていただいて、就職の関心を持っていただくという取り組みを数年前から始めています。函館市さんでも、例えば、「ものづくり広域連携フェア」のような商談会の場で、学生さんに函館の企業を知ってもらう機会を設けることで、地元への就職率も上がっていけばと思います。ものづくり分野に限らないと思いますが、学生と企業の橋渡しに取り組んでいただければと思います。

(奥平委員長)

ありがとうございました。これからも、継続してやっていただきたいというお話だったかと思います。他に何かご意見等ございませんか。本件につきましても、意見はこれ以上ないようですので、a評価でよろしいでしょうか。評価に赤渕委員のお話を付けていただきたいと思います。ありがとうございました。

続きまして、若者の交流の場の提供です。皆様、評価はいかがでしょうか。というよりは、これは評価をする前の段階かなと。整備中ですので、まだ、できていないものを評価するのは、どうかかなというのがありますが、事務局いかがでしょうか。

(事務局 嶽本主査)

こちらにつきましては、今、ご指摘いただいた見解もできるかと思いますが、当初の計画である、平成29年4月のオープンを目指し、現在、整備を進めるところであります。その計画に則って順調に進んでるということで、a評価とさせていただきます。

(奥平委員長)

わかりました。ちなみに、広さというのは、どのくらいあるのでしょうか。今日の新聞を見て衝撃を受けたのが、無印良品が1階から3階までという非常に大きな話があり、そうすると、これが非常に小さくなってしまふのかなという感じを受けたんですが、いかがでしょうか。

(事務局 田畑室長)

4階のワンフロアですね。

(奥平委員長)

さらに上ですね。ありがとうございます。

(事務局 種田部長)

面積まで出ませんけれど、1階から3階までが商業施設で4階にこの施設が入ります。

(奥平委員長)

わかりました。これでようやく納得がいきました。今、整備中ですが、進捗中ということで、これはa評価ということで、皆さんよろしいでしょうか。では、a評価ということにしたいと思います。ありがとうございました。

続きまして、女性の就労支援です。これにつきまして、評価を頂戴できればと思います。いかがでしょうか。a評価で皆さんよろしいでしょうか。実は、私、これに少し絡んでおまして、この講師をやっております。女性の方、仕事をしたいという方が多く受講されておりますので、一定の評価はできるのかなという感じでおります。自分が携わってるので、そういうお話になるんですけども、そういったところも、皆さんにお伝えをしたいなと思いました。

(八木橋委員)

今後の方向性が、事業内容の見直しとなっておりますが、具体的に何かありますか。

(奥平委員長)

恐らくですが、毎年、同じことをずっとやっていくのはやめようといった話は伺っています。そういうところを改善していくことになるのかと思います。

(事務局 嶽本主査)

今、委員長の方からもお話がありましたが、受講者から、初歩的な講座に加えて、より実務的な講座の方を希望する声が多くあります。例えば、パソコンスキルなどといった実践的な講座を実施していきたいと考えています。

(奥平委員長)

今年度から新たに2つの講座が生まれました。これ改善されていると思います。a 評価ということでよろしいでしょうか。ありがとうございました。

では、4ページに移ります。大学の魅力向上についてですが、初めて内部評価にC評価が出てまいりました。これについて、皆様から評価を頂戴したいと思いますが、事務局から何か説明ありますか。

(事務局 嶽本主査)

こちらのKPIにつきましては、収容定員以内での充足率としておりまして、一部の学校において、充足率の増加が見られたことから、内部評価をCとしております。対象の大学自体は8校ありまして、そのうちの2校で増加が見られたということでの評価となっております。

(八木橋委員)

aでいいと思います。

(奥平委員長)

aでいいですね。個人的には、内部評価が少し厳しすぎるのではないのかなという感じもしますが、どうでしょう。

(事務局 嶽本主査)

内部評価の区分につきましては、冒頭にも説明させていただいたんですが、A評価の順調は、目標年次までに達成できる見込の場合そのように評価しております。B評価は、一定の成果ということで、先ほども言いましたが7割ぐらいの達成が見込める場合、それには満たない多少なりとも成果があった場合は、C評価とさせていただきます。大学の魅力向上については、8校のうちの2校という結果となりますのでC評価とさせていただきますところ です。

(奥平委員長)

ありがとうございました。厳格な評価ということで、ご理解いただければと思います。これもa評価ということで皆さんよろしいでしょうか。大学の場合は、私もその場におりますので、なかなかその効果が出るまで、時間がかかるというのもあります。継続してやっていくということが重要なのかなと思っております。あと、私からの意見なんですが、身内から言うのもおかしいですけど、函館学というのをキャンパスコンソーシアムでやっています。この内容を少し考えた方がいいのではないかと感じています。市民がわからない内容では、意味があるのか、または自己満足になってしまうという懸念があります。どうしても、専門の先生が出てくると、全くわからないものがたまに出てきますので、そういうところをもう少し精査していただいた方がいいのではないかと、担当部署にお伝えいただければと思います。ちなみに、私は、この函館学ができてから一度も講義をしたことがなく、突然、来年度やることになりました。何となく惰性にならないようにした方がいいのかなという感じはしています。せっかくですから、そういうのがあると

興味感心を持ってもらえると思いますので、そういうのもちょっと検討していただければと思います。これは、a評価ということでよろしいでしょうか。

では、続きまして15番、地域包括ケアシステムの構築ということで、これにつきまして皆様から評価を頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

(高橋委員)

こういうシステムができたのはいいんですが、さっきの中学校の学区の問題とも絡んできますが、包括ケアシステムの下にいろんな事業所が入ってくる訳ですよ。その中に勤務する人、いろんな人が勤務するんですけど、事業というよりもそのレベルの差、高齢者を虐待のように扱うところもあれば、すごく優遇するところもある。また、全国でもトップレベルの施設もある。個人で、しかも一般の住宅でやってるようなところはレベルの低いところもあって、そういうのが全然見えてこないんです。また、そこに勤めてる人が、認知症のお年寄りを虐待する場合もあって、そういう現実がここからは見えてこない。そういう方が、事件を起こしてクビになっても、またどこかで同じことを繰り返している。そういう情報が、業者間や施設間で共有されてないから、同じことが起きている。そういうことが見えないのに、外部評価は付けられないと思う。

(奥平委員長)

今、評価を付けられないというご意見がありました。皆さんいかがでしょうか。評価を付けられないにしても、aかbの評価はしなければなりません。高橋委員は、bということになるかと思いますが、他に皆さんからご意見ございませんでしょうか。

(高橋委員)

事件を起こした人が次の施設に移るといのが、何かわかるようなシステムを作ってくれればいいんですけどね。そういった施設は人手が足りないからアルバイトにボーナスを付けている。ボーナスを付けても、なお人手が足りない。事業主は嘆いています。地域包括ケアシステムという名前はいいんですが、今、お話したような事実もあるということです。

(奥平委員長)

高橋委員から提起がありましたが、当然のことながら、この中にそういう部分が含まれていなければならぬのですが、これが見えていないということです。これは、改善すべきだということになると思いますが。

(高橋委員)

法律がものすごい勢いで変わっていくからついていけないんです。行政の方も、恐らく、目まぐるしく知らないうちにどんどん変わっていくから、こんなはずじゃなかった、と思うのがたくさん出てくる。だから、施設の方も対応が追いつかないのだと思います。

(奥平委員長)

そうしますと、実施している事業についてはいかがでしょうか。見えない部分については、高橋委員からご指摘をいただきました。ただし、この見えない部分については、評価できませんので、見える部分についての評価をしたいと思います。いかがでしょうか。見えない部分については付帯意見としてですね、事務局から所管部局に伝えていただくということになるかと思いますが。評価については、a、bいかがでしょうか。

(八木橋委員)

実施している事業については、達成できているので、有効でなかったとは言えないと思う。今出た話は、これとは別の話だと思います。

(奥平委員長)

実施している事業については、それなりの成果を上げられていると判断ができますので、これについては a 評価とします。なお、付帯意見については、高橋委員のお話を参考にして付けるということではいかがでしょうか。よろしいでしょうか。では、そのようにさせていただきます。ありがとうございました。

それでは、続きまして、健康増進・生きがいつくりの推進についてです。これについては、C 評価の理由を事務局から説明願います。

(事務局 嶽本主査)

健康増進・生きがいつくりの推進です。事業としては、高齢者大学やがん検診事業など、健康増進や生きがいつくりに関することを実施いたしました。K P I についても、これらに関するものとしており、高齢者対象大学の学生数は目標を上回っておりますが、検診受診率が全て1年あたりの増加すべき平均値2%程度よりも下回っておりますことから、内部評価の方はCとさせていただきます。今後の方向性につきましては、亀田地区における統合施設の整備に併せ、高齢者大学の見直しを検討していることなどからイとしております。以上でございます。

(奥平委員長)

ありがとうございました。皆様から評価のご意見を頂戴したいと思います。K P I は、かなり厳しい視点で評価していると思いますので、Cは致し方ないと思います。ここに書かれている内容については、事業は進捗している状況です。これについて、皆さん a, b どちらで評価するかということのご意見をいただければと思います。

(八木橋委員)

a でしょうね。

(奥平委員長)

a でよろしいでしょうか。亀田地区の施設もいよいよ動き出すということですので、ちなみにいつ開館予定ですか。

(事務局 種田部長)

平成 32 年の春です。

(奥平委員長)

わかりました。では、a ということではよろしいでしょうか。ありがとうございます。

続きまして、公共施設の耐震化についてです。これについて皆様から評価のご意見を頂戴したいと思います。ちなみに、アスベストの問題は、耐震の際に発覚したのですか。

(事務局 種田部長)

そうです。

(奥平委員長)

逆に、耐震をやったから問題点が暴かれたということになると、非常に効果が高かったという感じがするのですが、皆さんいかがですか。これは a 評価ではよろしいでしょうか。ありがとうございます。

続きまして、観光ブランド力の強化につきまして、皆様から評価のご意見を頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

(高橋委員)

地方から来た人によく言われるのですが、函館駅周辺が雑草だらけだと。これ何とかならない

のかと。九州なんかに行くと綺麗なんですよね。そこから函館に帰って来たときに汚いなと思います。そのためにも、市民の意識レベルを変えて、電信柱を3本くらい年間掃除すると、ポイントがもらえると、何かそういうことがあると高齢者の方は、喜んで掃除すると思います。そうした取り組みをしてくれればと思うのですが。

(奥平委員長)

ここに書かれていない内容が、今、高橋委員から出てきました。実は、今、国も地方自治体も予算削減ということで、そのために、除草をしなくなったというのがベースにあります。これ、国や北海道もそうです。市もそうだと思うんですけど。そうすると市民意識の向上がどこかで必要になりますので、その意見は、一応、伝えておいていただければなど。花いっぱいにするだけでなく、雑草も刈りましょうというのも実は大事なかなと。花をいっぱいにしても、雑草がいっぱいだと、意味がありませんよね。

(高橋委員)

鹿儿島辺りに行くと、市電の線路の間が芝生になったりしていますよね。

(奥平委員長)

あれは、別の理由によるものなんです。地面温度が上がってしまうので、いわゆるヒートアイランドを防ぐためのものです。函館だと全部枯れてしまうので、やるべきではないと思います。私も見ましたけど、そういうところ、緑化と言うと美しいまちづくり等も絡んでくると思いますので、それを伝えていただければと思います。高橋委員からも、今、提案がありましたので、よろしく願います。評価について皆さんいかがでしょうか。aでよろしいでしょうか。では、aでいきたいと思いますので、よろしく願います。

続きまして、観光客受入体制の整備について、ご意見を頂戴したいと思います。

(高橋委員)

新幹線の新函館北斗駅、函館市のことではないのですが、新函館駅に帰って来ると、真っ暗なので秘境駅みたいだと知人に言われました。また、レンタカーを借りても、どっちに行ってもいいかわからない。函館がどちらの方向なのかかわからないという話があった。さらに、函館山からの夜景も暗くなったと言われており、長崎の方が綺麗とも言われている。

(奥平委員長)

私、その辺の情報を知っております。新函館北斗駅についてですが、別の自治体の話になりますので、これについては触れないことにいたします。ただ、夜景については、今、市観光部の方で、どう見せるのがよいのか調査しているようなので、そこら辺は期待をしていいのかなと思います。他に、何かございますか。なければ、a評価でよろしいですか。では、そのようにしたいと思います。

続きまして、陸・海・空の交通網のさらなる充実について、ご意見を頂戴したいと思います。

(高橋委員)

大型旅客船ふ頭の整備の事業費がゼロになっています。

(奥平委員長)

大型ふ頭の整備は、国ベースの事業になります。

(高橋委員)

他の地域にいくと、大きい観光船が入ってくる港まちはたくさんあると思いますが、函館の港は小さいから大きい船が入って来れないと聞きました。観光客を入れるのはいいんですが、こ

ういう大型の事業をやるのはいいんですけど、観光船だけを入れるのではなくて、函館の水産物だとか特産物等といった物流機能を持つ港をつくってほしいんです。観光だけであれば、来る船を待つだけになってしまう。そういう機能だけであれば、ちょっとどうかと思います。栄えているまちは、どこも大きい企業を抱えている。企業城下町みたいに、そういう感じで大型のふ頭とか持っている、長崎などはそうだと思います。観光のためのふ頭を作るのであれば、物流機能を持たせるような港をつくった方が良くと思います。

(事務局 田畑室長)

前段でお尋ねいただきました27年の事業費はゼロになってございますが、こちらにつきましては、今年度、国の方で予算措置がなされております。そのため、27年度の段階では、まだ、新規に国に対して事業をお願いしている状況のため、事業費はゼロという形になってます。具体的には28年度から予算付けして、事業が進んでいくという状況になってございます。それから、若松ふ頭でございますが、こちらについては、大型旅客船クルーズ船を誘致するための施設を建設したいというふうに考えてまして、着いたお客様が、直ちに中心市街地に入ってもらえるようにするため、中心市街地の方にふ頭を整備するものです。また、現状、大型客船につきましては、浸水、深さの関係で、西ふ頭や港町ふ頭など、そういったところに着いているのが実態でございます。お尋ねになっております、荷物を外に出していく、そういった機能を本来であれば、港町ふ頭の大型岸壁を活用して外に出していくのが施設としての使い方なんです。現状では、一緒に使っているという状況になっていますので、観光客については中心市街地に、荷物については港町ふ頭を使ってという、今後そういうような形で、事業が進んでいくというふうになってございます。

(奥平委員長)

ありがとうございます。高橋委員からのお話は、基本的にその港湾機能の強化っていうここに書いてない内容が含まれたと思いますので、それについては、担当部局に伝えていただきたいと思います。また、大型ふ頭については、恐らく、観光立国、いわゆる国の施策としてですね、特に、外国人観光客を大量に誘致するという、その一つの表れということになりますので、そういう事業は、積極的に進めていただくのがいいのかなと思います。

それでは、評価についてはa評価でよろしいでしょうか。はい、では、a評価でいきたいと思えます。よろしくお願いたします。

続いては、公共交通の再編についてです。これについて、皆さまから評価のご意見を頂戴したいと思えます。私から補足なんです、ICカードの導入は3月に迫っております。イカスニモカカード、全国交通系カード、一応ですね、東日本は東京へ行こうが、札幌へ行こうが、地下鉄や私鉄、すべて乗れるというカードに生まれ変わります。これが、3月から導入開始です。市電も函バスも既に対応機器が付いております。切替の準備は、着々と進んでいるということをお皆さんにお伝えをしたいと思えます。他に、生活交通協議会では、現在、バス路線の再編等も検討しております。私、座長をしておりますので、皆さんにご案内をしたいと思えます。ということで、皆さん評価はaでよろしいでしょうか。では、a評価ということでいきたいと思えます。

続きまして、歴史的建造物等の適正維持につきまして、皆様から評価について意見を頂戴したいと思えます。いかがでしょうか。これもちょっと、私絡んでおりますので、一応、説明させていただきます。条例が改定され、広告等の規制が非常に厳しくなりました。例の像の問題がありまして、それ以降、非常に厳しくなりました。言ってみれば、美観を損ねるようなものを徹底的

に排除するという内容が変わってます。さらに、これが進捗中ということであると思うのです。ただ、指定された建物が壊されるということが、何件か発生しておりますので、その辺については何とか、これからの賛同とかも当然必要となってくるのかなという感じもしていますので、その辺は、景観審議会でも検討していくことになるのかなと思います。一応、それは申し添えておきたいと思います。評価については、これも a ということで、皆さんよろしいでしょうか。時間もだいぶ押してまいりましたので、どんどん進んでいきたいと思っています。

それでは、移住者・定住者の誘致に移ります。皆さんいかがでしょうか。相談件数が多くなっておりますが。

(事務局 嶽本主査)

こちらの方、補足説明させていただきます。K P I は、移住件数としており、まちづくりセンターにあります、移住サポートセンターを活用した移住件数となっております。移住件数が1年あたりの平均18組を大きく下回ったことから、内部評価をCとしております。なお、前回の会議の際にも、委員の方からご指摘がございましたが、こちらのK P I 累計90組以上には、福祉コミュニティへの移住者についてカウントしておりませんので、そのことを申し添えます。前回の会議の中でも、今後、そういったものが見込まれるのであればというお話しがありました。

(奥平委員長)

ありがとうございました。福祉コミュニティは、日吉町につくっているものですね。かなり大規模な施設になると思うのですが、そこを含めずに90組、かなり、目標値でかくないですか。結構ハードル高いですね。

(事務局 嶽本主査)

今後は、目標値に入れることも検討してまいりたいと思っております。

(奥平委員長)

私は、それがいいのかなと思います。これ達成できないんじゃないのかなという気もしますので、ありがとうございました。他に何か皆さんからご意見ございますか。よろしいでしょうか。では、a評価ということでいきたいと思っています。

それでは、評価の最後になります。広域連携の強化です。ここにつきまして、皆さんから評価についてご意見を頂戴したいと思います。ここに書いてある内容については、私は a だと思います。広域連携と言った場合、北海道新幹線の札幌延伸を見据えると、そろそろ、北の方にも向かなきゃならないのかなという気がします。その辺を付帯意見として、記入していただい方がよいのかなと思っております。特に、ニセコなどは、夏と冬で人を入れかえられるというところは、これから、宿泊業界で人が足りなくなった時など、相互に出し入れできるので、そういうところも、検討いただければと思います。いかがですか。何かございますか。

(事務局 田畑室長)

当然、そのような動きになってくると思います。具体的には、今、登別それから札幌、そういったところと連携しておりますし、いわゆる日高・胆振の日胆の自治体との交流も増えてきてございます。それから、ニセコなどとの連携も観光部を中心に始まって動いている状況です。

(奥平委員長)

わかりました、ありがとうございました。進捗状況としては、私の話した内容については進んでいるということですので、これも a 評価で皆さんよろしいでしょうか。それでは、a 評価ということで、評価については、これで終わりにしたいと思います。

(2) 総合戦略の改訂について

(奥平委員長)

それでは、総合戦略の改訂について話を進めさせていただきます。議題の2、総合戦略の改定について、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局 嶽本主査)

総合戦略の改訂内容につきまして説明いたします。資料2-1 函館市活性化総合戦略の改訂案と書かれた資料をご覧くださいと思います。1番目は、KPIの追加についてです。平成28年度が目標年度の終期となっており、かつ、指標の設定が1つしかない施策がありますので、平成29年度からの指標として、新たなKPIを追加するものです。対象は、総合戦略17ページに記載の施策「観光客受入体制の整備」になります。観光客の増加に伴い、今後も需要の増加が想定される観光ガイド数を88人から120人に、また、急増する外国人観光客に対応するため整備いたします。観光説明板の多言語化(3言語以上)を6基から40基に増加させるという、この2つを新たなKPIとして追加したいと考えております。次に、2番目は、具体的な施策および具体的事業になります。先ほどの評価の際にも、その効果が出ておりましたが、北海道新幹線の開業効果を一過性のものにする事なく、今後も引き続き、まちの魅力向上に取り組み、交流人口の拡大を図り、その効果を地域経済全体へ波及させる取組を進める必要があると考えることから、新たな取組を総合戦略に加えるほか、時点修正による文言の修正を行います。一つ目は、総合戦略8ページに記載しております、施策名「地場産業の活性化」の具体的事業に、「食の産業化推進事業」を追加するものです。当該事業は、新幹線開業効果を継続させるための新たな取組のひとつとして、函館の食の魅力を生かし、良質の食材を美味しく食べる”良材美食”のまちを目指していくことを「食の産業化」として掲げ、食を通じたまちの活性化を図っていかうとするものです。来月に実施を予定している「はこだて美食フェスタ」では、地元食材の再認識や地元食材を活用した新しい食べ方、メニューの提案などを、フェスタを通じて紹介してまいりたいと考えております。この「はこだて美食フェスタ」を含んだ事業は、本年度の地方創生推進交付金の対象事業となっております。

次に、めくっていただいて、二つ目になりますが、総合戦略16ページの施策名「観光ブランド力の強化」の具体的事業に「ガーデンシティ函館推進事業」を追加するものです。これは、まち全体が公園、まちそのものが公園のような、見て楽しい、歩いて楽しい、何度でも訪れたいと感じられるような、デザイン性の高い美しいまち並みを整備するため、昨年11月に策定した『「ガーデンシティ函館」の実現をめざして』に基づき、様々な取組を進めようというものであります。例えば、ハード系であれば、駅前通りでありますとかグリーンプラザの整備、ソフト系の事業であれば、景観に配慮した建築物や屋外広告物等の誘導などを行ってまいります。

最後に、三つ目になりますが、総合戦略の17ページ、施策名「陸・海・空の交通網のさらなる充実」の説明文書を修正するものです。これまで国に対して要望いたしておりましたが、先ほどの評価の際にも話として出ておりましたけれども、若松ふ頭の整備が、昨年の10月に国の2次補正予算が可決され、事業採択されましたことから、こちらの3段落目の最後の部分になりますが、これまで「要望する」としていた表現を「進めます」に改めるものです。

来年度に向けた改訂内容は以上となりますが、資料2-2として総合戦略の改訂版を添付してございます、ただいま説明しました箇所のほか、21ページ以降の参考資料では、これまでの経緯

の追加や委員名簿等の修正をしておりますので、後ほど、ご一読いただければと思います。私の方からは以上です。

(奥平委員長)

ありがとうございました。この内容につきまして、皆さまから質問やご意見を頂戴したいと思います。先ほどの高橋委員の雑草を抜くという話は、実はガーデンシティとも絡んでくるのかなと思います。その辺は、もしかしたら、抜けている可能性があるのですが、美しい街づくり進めようとした時に草刈という話がなかったもので、どうしても、上の方ばかり考えてしまうと、奇妙なことになるということもあるので、その辺も、ちょっと考えていかなきゃならないのかなということで、高橋委員からは、非常にいい問題提供いただいたのかなと思っております。高橋委員何かこれについてありますか。

(高橋委員)

そのことと全く別なことなんですけど、観光の話が出ていて、観光に関する方もいらっしゃる中で話すのも大変恐縮ですが。さっきも言いましたけど、ここにも書いていますように、過疎で将来人口が10万人くらいに減っていくという話が出てる中で、観光を呼び込んでも、それでも、将来10万人に減るんですかということが、ちょっと気になるんですよね。だから、観光も必要だけれど、どこか違う部分でやっぱりやっていかないと人口はもたない。若い人が定住しないといけないという気持ちがあります。先ほど日吉町のセンターの話が出ましたけど、あそこに施設を何か所か呼び込んで、そしてそこで雇用を増やすという話なんですけど、恐らく正職員で、年齢が40歳として、正職員で雇っても、15万円から20万円の話だと思います。生活保護でも10万円くらいはもらっていると。冬季加算つけたら、11万円くらいになると思います。生活保護の人は、病院代や税金、国民健康保険料など、色々な負担がないんですが、一生懸命に働いている人がそれと大きく変わらないっていう状況で、人が残りますかという話です。

(奥平委員長)

そういった話については、この次にそのような場がございますので、今は、この改定案について、皆さんにお諮りをしたいと思います。改定案について、皆様からご意見を頂戴したいと思います。改定案の内容です。これが今ここに書かれている太文字の部分ですね、ここの部分に絞った形で皆さまから頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

(八木橋委員)

改訂案については、いいと思います。新聞で見たんですが、3月に、ともえ大橋から七重浜までですか、向こうまでの港湾道路というんですか、あれが開通になります。特に、北斗市などから函館に通勤している方も結構いますし、そういう意味では、やっとできて良かったなど。私の認識では、管理は函館市で行うと思いますが、あれだけの事業ですが、戦略の中には掲載されていないのでしょうか。

(奥平委員長)

ともえ大橋の管轄ですね。国または市なのかということになるかと思いますが。作るのは国で、管理は市ではないかと思いますが。

(事務局 種田部長)

管理は、本市がすることになりますが、事業については、総合戦略17ページの陸・海・空の交通網のさらなる充実というところで、具体的事業には記載されていませんが「など」の中に入れております。

(奥平委員長)

わかりました。ありがとうございます。などに含まれているというふうにお考えいただければと思います。この改訂案について、皆様いかがでしょうか。これは、当然、必要な部分なのかなという感じはしますけれども、いかがでしょうか。

(全委員)

異議なし。

(奥平委員長)

それでは、原案のとおり、承認されたということになります。ありがとうございました。

(3) 地方創生に関する最近の動向について

続きまして、地方創生に関する最近の動向についてになります。ここで皆さまに、ご意見を頂戴することになります。まず、事務局から、地方創生について最近の動向を説明いただいて、その後、皆さまからご意見等を頂戴したいと思っておりますので、その時は、高橋委員またお話しをしていただくことになると思っておりますので、よろしく願いいたします。では、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局 嶽本主査)

本市におきましては、先ほど、評価していただきました活性化総合戦略に基づき、喫緊の課題である人口減少を少しでも緩やかにするため、様々な取り組みを進めております。今後につきましては、先ほどもお話いたしました、「ガーデンシティ函館」や「食の産業化の推進」のほか、前回の会議において、委員の皆様からも意見が出ておりましたけれども、函館で開催されている多くのイベントを体系化して発信し、いつ来ても何か楽しいことをやっているまち、何度行っても楽しいまちとなることをめざす「フェスティバルタウン函館」を推進していきたいと考えております。なお、このフェスティバルタウン函館につきましては、事業の詳細が決定されていないことから、今回の戦略への掲載は見送っております。このほかにも、子育て支援や移住対策などの様々な取り組みによりまして、人口減少を少しでも緩やかにするという目標を達成できるように努めていきたいというふうに考えております。

次に、お手元に配布した資料3になりますが、国の動きに目を向けますと、本年度からの制度として、地方公共団体の自主的・主体的な取組で、先導的なものを支援する、昨年、委員の皆さまに評価いただきました先行型交付金などの後継制度となります「地方創生推進交付金」といたしまして1,000億円の予算が計上されております。また、この交付金のほか、国の総合戦略を踏まえた個別施策としまして6,536億円などが来年度予算として計上されたところであり、必要に応じて、こうした国の制度も活用しながら、引き続き、本市の人口減少対策を進めてまいりたいと考えております。私からは以上です。

(奥平委員長)

ありがとうございました。ここで問題となってくるのは、地方創生に絶対欠かせないのは、人口減少にどう対応するのかという部分になると思うんです。前回の会議の時にも、この部分が非常に議論の対象となりました。例えば、交流人口を増やすのは、言ってみれば、一時の一過性のものであると、交流人口を増やすだけでなく、実は定住人口をどう増やすのかということが、一つの大きなカギになると思います。定住人口をどう増やすのか、ここの部分が実は地方創生の成功のカギになると私は考えております。当然、働く場の問題が必ず出てくるんです。今、観光ば

かり何となくやっているという感じがしますが、観光というのは、どうしても景気などにも左右されますし、言ってみると水物です。この水物ではないものをどう増やしていくのか、言ってみれば真水というか、底流しているものをどう増やしていくのかということについて、皆さまからご意見を頂戴したいと思います。何かいいアイデアがあれば、ここにまた取り入れて行けると思いますので、皆様からの意見を頂戴したいと思います。

(高橋委員)

工藤市長も同じようなことをおっしゃっていたと思いますが、地方だけの力だけでは、人口減少を食い止められないと。やはり、国の施策を変えてもらわないとダメだと、工藤市長はおっしゃっていたと思います。私も、確かにそうだと思います。先ほど出ていましたが、観光でクルーズ船を誘致するのもいいんですけど、そのお金があったら、どこか他の部分に使ったらどうか思います。さっきも言った、私の話ではないですけども、高齢者の方、日々の暮らしに困っています。そういう部分に少しでも、回してもらえればと思います。お金持ちが大きい船からたくさん降りてきて、というのもいいが、それがいつ来るかわからない。あの舞鶴の港に船で戻ってくる息子を待って、いつ来るかわからない人を待っている、そんなような形になるんじゃないかなと。新函館北斗駅できましたけど、夜は真っ暗です。また、五稜郭も確かに綺麗な公園だけど、タワーがあるからいいんだと。タワーがなければただの綺麗な公園だと、そういうふうに僕は知人に言われたんですよね。だから、今日の食事をどうしよう、明日の生活をどうしようという人や、あるいは、国を見るのであれば、リニアのお金を少しそこに回せないのかと。JR北海道の災害復旧を見ても、そういうのがわかると思うんです。そういうことを考えてもらいたいと思います。

(奥平委員長)

ありがとうございます。ここで皆さんから何かご意見ございませんか。皆さんから一言ずつ頂戴しようと思っております。皆さんも高橋委員のように、ご意見をお持ちだと思うんですが、いかがでしょうか。

(中野委員)

昨年の会合の席でも、いろいろ議論があったと思うんですけど、やはり、高橋さんのおっしゃるとおり観光だけではやっていけない。やはり水物ですしね、将来に不安の部分があると思います。地域の将来を考えるとすることは、やはり、国の予算を引っ張るだけではなくて、高橋さんがおっしゃるとおり、考えなきゃいけないんだと思います。前も言いましたけど、この戦略の中に、経済が元気になることとか、住みやすいまちとか、子どもたちの未来を拓くとかですね、そのまちの魅力というところが、交流人口を増やすということなんでしょうけれども、経済が成り立たないと、全てがそこから波及して悪循環になってしまうような部分があると思うので、そこは、やはり真剣に考えないと、手遅れになってしまうと思いますね。ですから、それなりに稼げる場所があって、それだけの賃金をもらえるような人達が大勢いれば、多分、子どもたちも何不自由なく、みたいな環境になるでしょうし、お年寄りも、安心して住めたりですね、問題は、どうその地域のお金を取り込んでくのかだと、まず、それありきだと思います。そこも見えていかなくちゃいけないので、この戦略を正直言って申し訳ないですけど、見ても不安になってしまう感じが、まだまだ拭いきれないというその辺を、これからもっともっと考えていかなくちゃいけないと思いますね。

(奥平委員長)

ありがとうございました。今、これからどう安心して暮らしていけるのかという部分では、その働く場という話が出できたのかなと思います。

(八木橋委員)

私も、働く場というのがなければ定住人口が増えないと思います。もちろん、各国の人を含めて、駅前に賑わいが出てきたということは嬉しいことだと思いますが、それでは、まちは衰退していく。そういう意味では、むしろ函館市民よりも、外国人の方が多んじゃないかなという地域もあります。今日も、実は、ある高校に行ってきた、昨日も行ってきたんですけど、高校を卒業する皆さんに、実は、奥平先生のところにも行きたいなと思ってたんですけど、このまちに魅力を感じないのか、もしくは、自分の夢が叶うような働く場が足りないのか、そこをきちんと聞いてみたいなと思ってます。また、中小企業家同友会の事務局の方とも、近々、意見交換会をやりましょうという話をしていたんですが、実を言うと函館ってそんなに悪いまちじゃないっていうんですね。釧路とか色んなところを渡り歩いている方とも話しましたが、そんなに悪いまちじゃないと、評判は悪くないはずだと言います。企業としても、実は受注はあるんだけど、むしろ若い技術の職員がなんで入ってくれないのか、逆に悩んでいるという面もあると聞きます。私も、もちろん一つの反省点として、自分らの組織の方ばかりやってたもんですから、少しそういう色んな方の意見も聞き、意見交換などもする中で何かヒントがあればと思っています。これまでの観光だけでは、どんどん先細りしていくのがはっきりしています。

先月、異業種の交流会に参加したんですが、市内には多くの異業種団体がありますよね。異業種の会に魅力は感じたんですけども、数が多すぎてよくわからなかった。その異業種をまとめてくれるのが函館市ではないのかと、反面思ったりもしてたんですが、会の中で、みんなで知恵を出して、その中で実現可能なもの、一方では、国から交付金をもらえる事業というものを、そして、どこかの大きい企業が函館に何か作ろうと思うようなヒントがあればなと思っています。だから、私の持っている知識とか情報の中では、今は思いつかないんですが、結局は、みんなで知恵を出すことに尽きるのかなと思っています。

(奥平委員長)

ありがとうございました。今、八木橋委員からお話しがあったところで、その地元の業者が人が欲しいんだけどもみみたいな話、雇用のミスマッチのような問題が、当然、函館でも起きています。実は、私も異業種の会で、先生のところから学生が来たら、こんなにいいことはないんだけど、と言われます。最後には、敷居が高くていけないという話になりますが、そんなことはないです、という話はするんですけど、その二の足を踏んでしまうってことは、こっちから出て行っていないからという部分もあるからですね。そういうところの意識が、やっぱり変わっていかねばならないということを、日頃、感じております。

(赤渕委員)

雇用のミスマッチというお話がありました。函館も観光のまちとして、魅力があるところではありますが、観光については、中野委員がお詳しいとは思いますが、旅館業などで、雇用の確保が難しいことが課題になっていると思います。やはり、そういうところを一つ一つ解決していかないと、いくら「函館市は観光を頑張ります」と言っても、企業の方が体力がなくて衰退してしまうという可能性もあるかと思っています。そこは、課題を解決していかねばならないと思っています。

また、今年、函館のもつ一つの大きな基盤である水産業も、なかなか厳しい状況になってきて

いるというところもあります。自然環境なので、我々としても対処しにくい部分もあるかと思いますが、今後、水産業が不況から脱却し、新たな一歩を踏み出せるような支援というものが必要なのかなと感じております。

(奥平委員長)

ありがとうございました。今、その話を聞いていて、聞いた話なんですけど、ベイエリアに朝食が有名なホテルありますよね。あそこは、イカ山盛りが売りですが、イカが全く出なくなったようで、お客さんから苦情がきているという状況になっているみたいです。これって、イメージは非常に悪いですよね。そうすると、何かに変えなきゃいけないんだけど、その何かに変えるっていう知恵をどこに求めていいかわからないっていうのがあるのかなという感じはしています。そういったことを言うと、やっぱり課題は山積なのかなという感じはしています。今、皆さんのお話をお聞きして、やはり、地方創生イコール雇用創出なんじゃないのかなっていうのを強く感じています。そうすると、雇いをどう創るのかっていうことで言うと、実は、チャンスがあつたら飛び付かないといけないということなんです。このアンテナをどう高く掲げるかということです。例えば、本州の大企業が移転したがついてる。そういう時に、函館市いけるんじゃないのかみたいなこと言うんですけど、多分、そういう企業もあるような気がするんです。そうすると、それを捕まえてくるだけでですね、雇用が3千人とか生まれるんです。これ、かなりな経済効果になるわけで、市長施策として、IT企業の誘致があります。IT企業、実をいうとあまり雇用力はありません。ですので、IT企業の誘致と同時並行で、やはりもっと大きな雇用力のある、何かを捕まえてくる努力も、私はこれから必要なのかなという感じはしています。様々な企業がたくさん来るのはありがたいんですけども、雇用力がいま一つ強くないということになりますと、次に狙わなければならないのは、日本国内だけではないと思うんです。そうすると、函館は相対的に他の地域に比べて賃金が安いことを考えると、当然、国内だけじゃなくて、製造費が上がってしまったところと函館を比較したら、函館は悪くないじゃないかみたいになると、海外の企業ですら誘致可能なんじゃないのかなという感じもしています。そこまでいけるのかどうかは、かなり先の話にはなるかと思うんですけども、そこまで考えないと、恐らく人口17万人になることは確定かなというところですよ。その辺について、まだ少し時間がございますので、最後にもう一言ずつお聞きをして終わりたいと思います。

(高橋委員)

福島県のいわき市が、確か7、8年前だったと思うんですけど、函館と人口減少の率で競争しているくらい人口減少していた街だったんです。ところが、今は人口30数万人で、どんどんどんどん人が増えて、すごい賑やかになっています。そこには、日本製紙などの大きな工場もたくさんあるんですけど、函館は、炭鉱町でもなんでもないので人口減少している。向こうは何で人口が増加しているかという、ご存じのように原発の避難民ですよ。函館はそういうやっぱり大きな何かがなければ、蘇らない気がするんですけど。

(八木橋委員)

函館で大きな企業という、昔であれば、函館ドックがあつて、ドックに働いている人たちが大勢いるという時代でした。今、私共の仲間で良く聞くんですけど、悪くはない、一時期のどん底な状況からは良くなっているということですが、昔のようにはなかなかならないだろうと。私の友人、企業経営者の人たちと酒を飲みながら話をすると、そんな特効薬あつたら、誰も悩まないし、しいて言うなら人が嫌がるような施設を誘致しない限りは、逆転はないんじゃないのと言

われたことはあります。例えば、迎撃ミサイル基地を置くとか、他の都市で受け入れがたいというリスクを背負わない限り、急な逆転は難しいんじゃないのかなど。そのように言われて、確かに一理あるなど思ったんですが、もちろん受け入れ難いことであると思います。ただ、このまま地道にみんなで頑張ろうではいけないのは確かだと思っています。

(赤渕委員)

函館市の施策として「食の産業化」が一つの柱になっていると思いますが、是非とも推進していただきたいと思います。函館の「食」は、非常にいいものを持っていると思いますが、「函館ブランド」というところまでは、まだ、ブランド力の発信がちょっと弱いのかなというところもあります。1社だけではなく、函館が一体となって、ブランド化を推進していただければ良いのかなと思います。国内全域もそうですし、海外に対しても魅力の発信が重要になっていくと思います。市民に向けてのイベントも必要な部分であるとは思いますが、全国・海外に向けての「食の産業化」の発信をさらに期待したいと考えております。

(中野委員)

今、ブランドの話も出ました。魅力的なまち日本一に3年連続でなったりとブランドの力は元々あると思うんですけど、逆にそれを、食の方に活かしてきてなかったと思います。十勝は、帯広を中心に十勝ブランドを構築して、十勝というだけで何かいい場所というイメージができています。本来、南北海道全域が、函館ブランドをうまく活用して、もっともっというんな食材を全国に発信するぐらいの方がいいのかなというのを前から思っていました。

雇用の問題については、今、弊社でも社員を募集しても来ないのが現状です。そこはもう自社の努力として、給料を上げたり、福利厚生を良くしたり、今後は、そういう努力をしていかないと、良い人材が確保できないというのは、函館市内のあらゆる産業がそうなるのだと思います。ですから、市内に大学がたくさんあるのに、結局、大卒に見合った給料を払える企業が少ないので、そこは何か観光業界も我々の方では、その大学を出た方でも満足して就職してもらえるような、受ける側が体制を整備していかないといけないというのを非常に感じています。そのためには、やはりたくさん観光客の方が来てお金を落とすという、安定した部分も企業として頑張っていくといけないので、そのバランスが非常に難しい。

人口減少というのは、恐らく全国的に止められないことだと思いますので、最後に、そこだけ考えると、何か国の政策として人口を増やすようなことを考えてもらいたいなと思います。このまま、ただ指をくわえて人口が減っていくのを見ているだけでいいのかなといつも思います。私の持論としては、もっともって道德教育をしっかりやる必要があると思います。ゆとり教育の時にそこを失ってしまったのかなと思っています。親孝行とか、今、社会の中でちゃんとできていないのではないのかと。我々の世代は、その親孝行とか、親に恥をかかせてはいけないとか、親のために頑張らなさいというような、人のためにという教育を受けたと思います。今の、ゆとり教育では、自分のことだけを考えなさいっていうのが、当たり前のようになっているんで、そうすると当然、自分勝手に生活して、結婚もしないで、一人でいた方が楽だになってしまおうのでしょうか。ある意味、そうじゃなくて、親孝行というか家族を大事にして、子孫をやはり繋いでいくとか、それが、生きていくことの重要性みたいな、そういう道德感に戻っていくと、多分、人口は増えないと思ってますし、何かそこが、根本の人口を増やすところ、国全体で何かやっていくことに繋がるのだと思います。

(奥平委員長)

ありがとうございます。今の中野委員を総合すると、やはり地方だけではどうにもならないという印象を皆さんお持ちなのかなと思っております。そうすると、国は、ただ地方にやれというのではなく、地方から声上げて、政府で何とかそういう施策を作るようにしないと、逆に地方が疲弊してしまうという悪循環になりかねない状況なのかなと思っております。ちなみに、函館自体がですね、国の施策によって振り回されたまちでもあります。高度経済成長期に工業都市として栄えた、全く観光都市ではなかった函館が、結果的に観光にいかざるを得なかった理由というのが、三点セットである「ドック」、「ニチロ」いわゆる北洋漁業、それと、もう一つは「国鉄解体」です。連絡船の廃止なんです。結果的に函館の製造業を全部支えていた、この三つの屋台骨が、全部抜けたわけです。そうすると、それを補うために観光が入ってきたという、言ってみれば完全に、翻弄されてきた中で、この後、翻弄されないためにはどうするのかという、やはりこの三点セットの一部でも、取り戻すことを考えていかなければ、当然、もう体力なくなってしまうから、その辺を考えることが大事です。

もう一つは、今、実はかなり高齢化している函館なんですけど、まだ若者がいます。先ほど言ったとおり、大学が多数ありますので、若者で言いたくてウズウズしている人がたくさんいるはずなんです。その若者の、そういったその街づくりに対する意見とか、人口増加に対する意見というのを、どんどん取り入れるようなシステムをつくる必要があると思います。先週、高専が全校の高専から生徒を集めてアイデアソンをやりました。この時は、大人がびっくりするぐらいの、すごい内容のことが返ってきました。中野委員もご覧になったかと思いますが、ものすごい、こんなことができるのかということが、多数出ていました。そういう場というのを、市民に公開していくのもいいのかなと思っています。そうすると、市民も、若者が頑張っているなら、私たちも頑張らなきゃみたいなことができるのかなという、そういう場の提供も必要なのかなと思います。私も今回のアイデアソンも、各報道機関に一斉に出してもらって、とにかくもうこれは案内してもらわなきゃダメだということで動いています。

もう一つは、函館は、実は広報ベタなんです。全市民が広報できないのかというくらい、情報発信力が低いんですね。みんな、情報発信しなくてもいいや、誰かがしてくれるだろうという、どっかでそういうのがあるので、これも変えなきゃいけない部分なのかなと思います。ひとりひとりの持っているキャパシティは非常に大きいのに、埋もれたままで消えていくというのを何とかしなきゃいけないのかと。そういうのが、実は、いわゆる地方創生、創り上げる、創って成すわけですから、そういうことに必要なのかなと私は感じています。皆さんの話をお伺いして、まだまだこれからやることは、たくさんある、やればもう少しは何かできるのかなという感じはしました。本日は、忌憚のないご意見をいただきまして、ありがとうございます。

..... 3 そ の 他

(奥平委員長)

その他、何かございますか。事務局から何かございますか。

(事務局 嶽本主査)

今年度、評価・検証等の初年度ということもありまして、会議の開催が遅くなってしまいました。大変申し訳ございませんでした。今年度は、この会議を持って終了ということになります。来年度の開催につきましては、本年の秋頃までには開催したいと考えております。開催が近づきましたら、改めてご案内したいと思います。本日は、ありがとうございました。

.....4 閉

会.....

(奥平委員長)

これを持ちまして、第2回函館市まち・ひと・しごと創生推進会議を終了いたします。今日は
どうもお忙しいところ、お集まりいただきありがとうございました。